

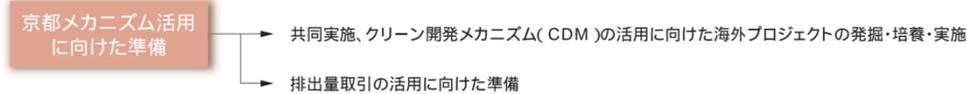
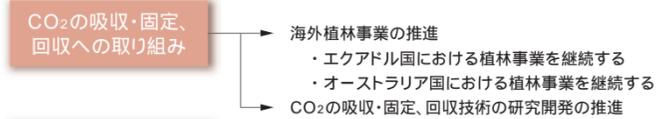
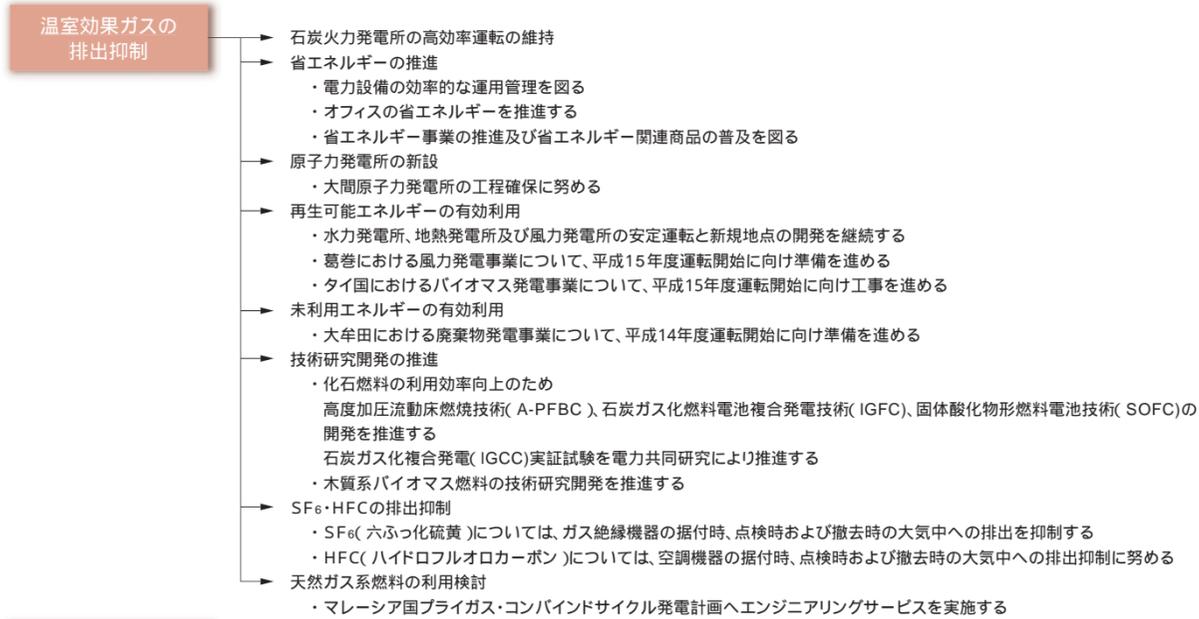


2002年度行動指針

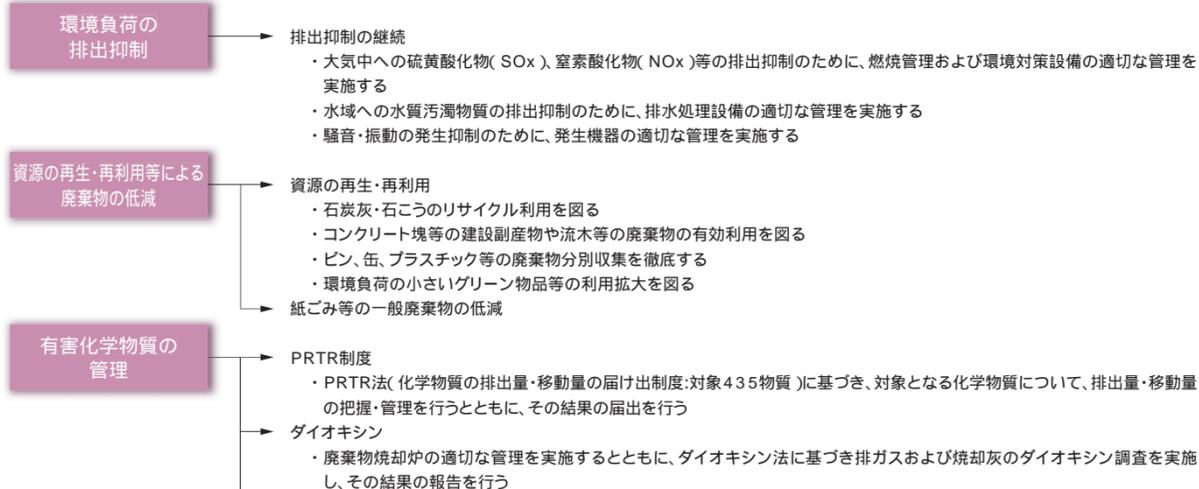
2002年度は、次に示す行動指針に基づき、環境保全活動を展開します。

1. 地球・地域環境の保全

①地球環境保全への取り組み



②地域環境保全への取り組み



自然環境の保全への配慮

- PCB
 - 廃棄物処理法およびPCB特措法にもとづき適切に保管・管理する
 - PCB処理の基本方針を決定する
- 計画・設計面での取り組み
 - 事業が環境へ与える影響を評価し、計画・設計段階から環境に与える影響を低減するよう努める
- 建設工事における取り組み
 - 自然との共生に向けた環境保全対策を実施する
 - 特に地域の生態系への影響の軽減を図るとともに、種の多様性の保全に努める
- 貯水池・調整池の管理
 - 貯水池・調整池の管理に当たっては河川の水質保全に配慮する
- 森林の保全に向けた取り組み
 - 自社の特定保有林を水源林に位置付け保全に努める

海外プロジェクトにおける環境配慮

- 環境対策技術の海外移転の推進
 - 火力発電の環境対策技術および水力発電の技術移転の推進
- 適切な環境配慮に基づく開発計画の策定と実施

2. 環境管理の充実

環境管理レベルの向上

- 従業員の意識向上
 - 計画的な教育・研修・訓練により、従業員の取り組み意識の向上を図る
- 関係会社を含めたグループワイドの取り組みの強化
 - 関係会社の環境管理体制強化を支援する
- 環境会計
 - コスト把握手法の充実に努める
 - 環境保全効果の評価方法について検討する

環境管理システムの効果的な運用

- 環境管理システムの継続的改善
 - 環境負荷の実態を把握するとともに、環境保全のための目標を設定する
 - 法令・協定等を遵守し、目標達成に取り組む
 - 環境監査を計画的に実施する
 - 環境監査の結果にもとづき環境管理システムを見直す

3. 社会とのコミュニケーション

環境情報の公表

- 環境報告書の作成
 - 2002年版環境行動レポートを発行するとともに、ホームページに掲載する
- 環境保全活動に関する広報
 - 新聞、経済誌等を通じた環境保全活動の広報
 - 事業所、PR施設等への来客者に対する広報

コミュニケーションの活性化

- 環境関連行事等の活用
 - 環境をテーマとした事業に取り組む
 - 事業所施設等を活用した取り組みを実施する

社会貢献活動の推進

- 地域の環境保全活動への参加
 - 環境月間等に呼応した、発電所周辺、ダム、道路、河川等の清掃活動、植樹祭に参加する
 - 市町村、地区主催の清掃・美化活動に参加する
- 地域環境保全活動への主体的な取り組み

定量目標

行動指針	定量目標	
	項目	2002年度目標値
温室効果ガスの排出抑制	石炭火力平均熱効率(発電端)	39.5%以上
	本店ビル電灯使用量	極力低減(190万kWh以下)
	再生可能・未利用エネルギーの開発	7000kw以上(累計331万kW以上)
CO ₂ の吸収・固定、回収への取り組み	SF ₆ 回収率	95%以上
	海外植林事業面積	2,200ha以上(累計6,000ha以上)
環境負荷の排出抑制	SO _x 排出原単位	0.30g/kWh以下
	NO _x 排出原単位	0.60g/kWh以下
資源の再生・再利用等による廃棄物の低減	石炭灰の再資源化率	65%以上
	石こうの再資源化率	100%
	流木の再資源化量	5,000m ³ 以上
	再生紙購入率	100%
	紙くず等の発生量	極力低減(本店ビル60t以下)